



NIPPON BEARING

7月25日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【ゴルフボールは キズつけばキズつくほど よく飛ぶ】

ゴルフボールと言えば、表面に丸い小さなくぼみがたくさんある独特の姿を思い出します。あのくぼみは、デザインなのでしょうか？それとも意味があるものなのでしょうか？

今では当たり前になったゴルフボールの小さなくぼみ。昔のボールには在りませんでした。19世紀頃、『ゴルフボールは使い込めば使い込むほど飛距離が伸びる！』という現象が頻発したことから、【古く傷ついたゴルフボールほど、よく飛ぶ】と考えられました。そこで、『始めから傷をつけたボールを作れば良いのでは？』ということで、ボール表面を凸凹に加工したのが、ディンプル（くぼみ・凹み）の始まりでした。

実際に、ディンプルの有・無では、飛距離が2倍も違ってきます。

ディンプルの主な役割は、

- ボール周りの空気の流れを整え抵抗を減らす
- 揚力（ボールの浮く力）をより大きくする

現在では、ディンプルの形状・数・面積などを綿密に計算して、より最適なボールが作られています。

日本ベアリングにも、既存製品を進化させることで誕生した製品が数多くあります。

その中でも間もなく発売される新時代のローラーガイド EXRAIL は、ローラータイプの転動体をニードルタイプにまで進化させたことで誕生しました。

EXRAIL は、既存の概念を打ち破る勇気があったからこそ誕生した製品と言えるでしょう。

ゴルフボールの飛距離が伸びた理由を、『古くなった』『傷がついた』ことだと考えられた先人達。

そこには、既存の概念に捉われない柔軟な姿勢がありました。

開発力、中でも【進化】という部分に於いては、どのような状況も好転的に捉えられる力が必要なのかも知れません。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】